

平成 2016 年度 JCCLS 標準採血法検討委員会活動報告

Committee Report on the Standard Procedure for the Blood Collection in 2016

渡邊 卓 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員長、杏林大学医学部教授)

Takashi Watanabe (Chairperson of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

大西 宏明 (JCCLS 標準採血法検討委員会委員、杏林大学医学部教授)

Hiroaki Ohnishi (Member of JCCLS Committee on the Standard Procedure for the Blood Collection, Professor, Kyorin University School of Medicine)

委員 (五十音順、敬称略)

雨宮みち、大西宏明、川合陽子、高木博規、谷口嘉朗、千葉正志、東克己、米山彰子、渡邊卓

オブザーバー：村西泰法、渡辺清明

標準採血法検討委員会では、平成 23 年 1 月の標準採血法ガイドライン第 2 版 (GP4-A2) 発行後、関係各界からの反応を分析し、またその後得られた採血法に関する新たな知見を取り入れ、今後のガイドラインの改訂の方向性を検討してきた。

1. 標準採血法ガイドライン次期改訂版の発行時期について

平成 29 年 3 月 30 日に、委員会が開催された。前回までの議論および読者から寄せられた質問に基づき、大西委員から改訂案の草案が提示され、それをもとに活発な議論が行われた。これらの議論に基づき、具体的な改訂作業を進めることとした。改訂された CLSI のガイドラインなど、できるかぎり最新の情報を入手しつつ、29 年中に次

期改訂版を発行することを目標とした。次回委員会を 9 月ころに開催し、最終案を提示する。それをもとに、理事会に諮問し、パブリックコメントを募る作業を 29 年末までに行う予定とする。

2. 次版のガイドラインの方針

次版のガイドラインでは、全体の構成は大筋で現行の版を踏襲するが、真空管採血・注射器採血・翼状針採血の位置づけについて、採血の現場を取り巻く状況の変化や新たなエビデンスの蓄積に基づき、より詳細で現状に即した内容に改訂する内容となっている。採血手技に関連する検査値の変動については、過去の研究結果を読者が容易に検索できるよう、文献情報を充実させることに主眼を置くこととした。

3. ガイドラインの増刷

この 1 年で 1,000 部ほど出荷しており、現状で在庫が 40 部程度となっている。次期改訂版の発行までは必要な部数について増刷を行う予定とした。